



2023年3月期通期

決算説明補足資料

2023年5月12日

株式会社アイ・ピー・エス

証券コード 4390

企業理念

OPEN DOOR

私たちは、いまだ誰も突破できていない障壁のある生活に密着した分野で、誰よりも先んじて事業機会を創造し、事業を展開し、産業構造を変え、あるべき社会を実現してまいります。

当社グループでは、日本およびフィリピンにおいて、最先端の通信技術を活用した通信サービスを提供することにより、経済の発展に貢献するため、積極的な投資を行い、事業の拡大を図っております。



連結決算概要

連結売上高：12,346百万円 連結営業利益：3,311百万円

事業状況

国際通信事業においてC2C回線などの提供が順調に拡大し、通信機器販売の計上の収益計上もあり、大きく増収増益。

国内通信事業は分社化を実施。引き続きコールセンター向けサービスが好調に推移。

メディカル&ヘルスケア事業において、レーシック施術が増加。

フィリピン通信事業では、事業拡大のための先行投資を実施。

来期連結業績予想

売上高：14,000百万円 営業利益：3,800百万円

1 | 2023年3月期通期 決算概要

【2023年3月期 連結実績】

(単位：百万円)

	第4四半期				通期累計			
	2022年3月期	2023年3月期	前期比	%	2022年3月期	2023年3月期	前期比	%
売上高	4,302	3,549	▲ 753	▲ 17.5%	10,728	12,346	1,617	15.1%
営業利益	1,032	983	▲ 48	▲ 4.7%	2,456	3,311	855	34.8%
経常利益	1,417	1,157	▲ 259	▲ 18.3%	2,897	3,464	567	19.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	933	735	▲ 197	▲ 21.2%	1,888	2,292	404	21.4%

2023年3月期 実績分析

売上高：国際通信事業においてC2C回線のIRU契約案件の収益計上などに加え、通信機器販売の計上により売上高が大きく増加。メディカル&ヘルスケア事業においてもレーシック件数増加による大幅増収も寄与し、前期比15.1%の増加。

営業利益：国際通信事業、国内通信事業およびメディカル&ヘルスケア事業が増益になったことにより、前期比34.8%の増加。

経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益：

営業利益の増加に加え、円安による為替差益210百万円（前期の為替差益は431百万円）の計上により、それぞれ前期比19.6%、21.4%の増加。

■ 国際通信事業（海外通信事業）

	2022/3	2023/3	前年同期比	(単位：百万円)
売上高	3,684	5,167	1,483 (+40.3%)	
営業利益	1,011	1,704	692 (+68.5%)	
営業利益率	27.5%	33.0%	—	

国際通信回線の提供が順調に拡大。C2C回線のIRU契約案件の収益計上の増加に加え、通信機器販売の収益計上などもあり、増収増益となる。

■ フィリピン通信事業（フィリピン国内通信事業）

	2022/3	2023/3	前年同期比	(単位：百万円)
売上高	1,784	1,181	▲603 (▲33.8%)	
営業利益	224	229	5 (+2.5%)	
営業利益率	12.6%	19.5%	—	

営業員の増強などにより法人向けインターネット接続サービス（Enterprise）の売上が増加したものの、前期に大口の通信機器販売の計上があったことから、減収となる。

■ 国内通信事業

	2022/3	2023/3	前年同期比	(単位：百万円)
売上高	3,988	4,275	286 (+7.2%)	
営業利益	819	919	100 (+12.3%)	
営業利益率	20.5%	21.5%	-	

2022年7月1日に新設分割により、株式会社アイ・ピー・エス・プロを設立。AmeyoJ及び秒課金サービスを組み合わせたコールセンター向けサービスが引き続き好調に推移し、増収増益となる。

■ メディカル&ヘルスケア事業（医療・美容事業）

	2022/3	2023/3	前年同期比	(単位：百万円)
売上高	1,244	1,690	446 (+35.9%)	
営業利益	419	536	116 (+27.8%)	
営業利益率	33.8%	31.8%	-	

ボニファシオグローバルシティに開設した第3院を中心にレーシックの提供が拡大し、増収・増益となる。さらなる事業拡大のため、オルティガス院の拡張工事を実施。人間ドック／健診センターの開業のため、子会社を設立し、開業準備を実施。

■その他

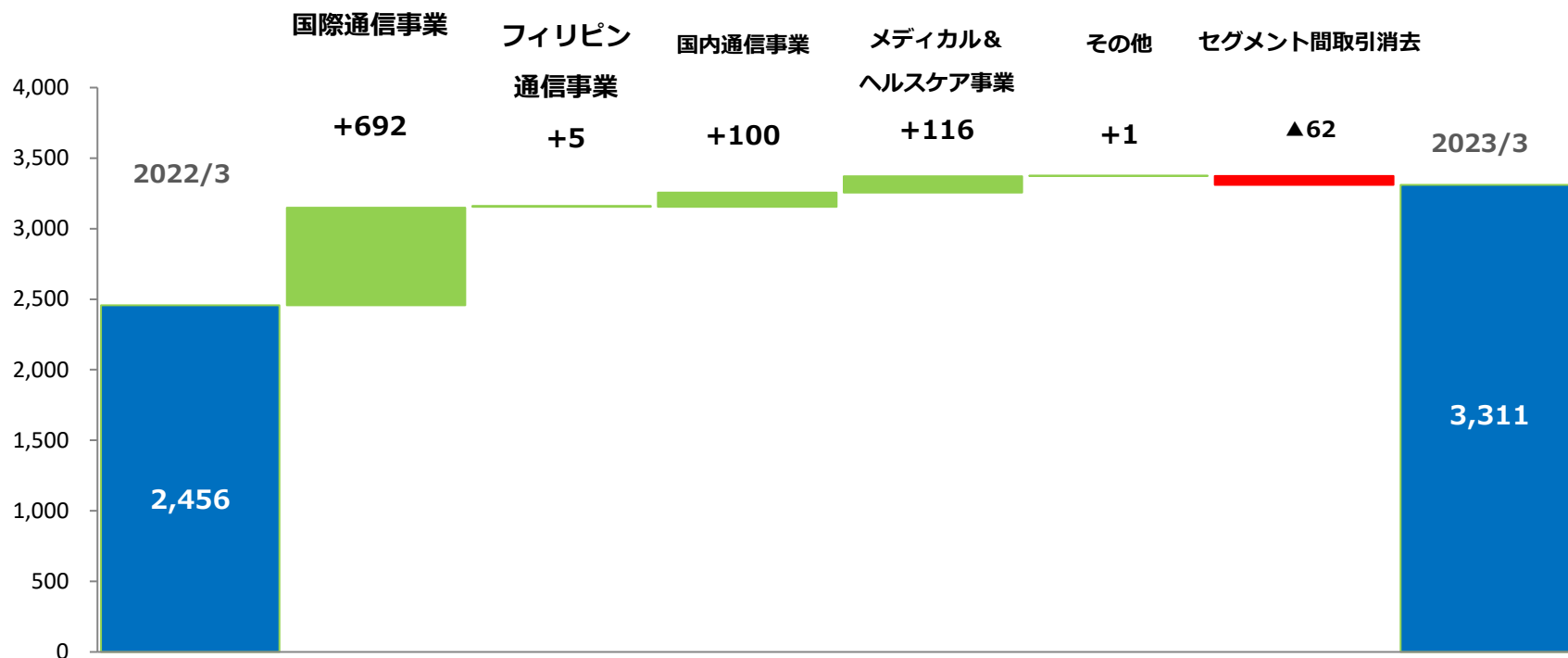
営 業	2022/3	2023/3	前年同期比	(単位：百万円)
売 上 高	26	31	4 (+16.2%)	
営 業 利 益	▲19	▲17	1 (-)	
利 益 率	-	-	-	

フィリピンのコールセンターから送金斡旋などの勧誘を実施。

営業利益増減（前年同期比）



国際通信事業、国内通信事業およびメディカル&ヘルスケア事業が好調に推移し、増益となる。

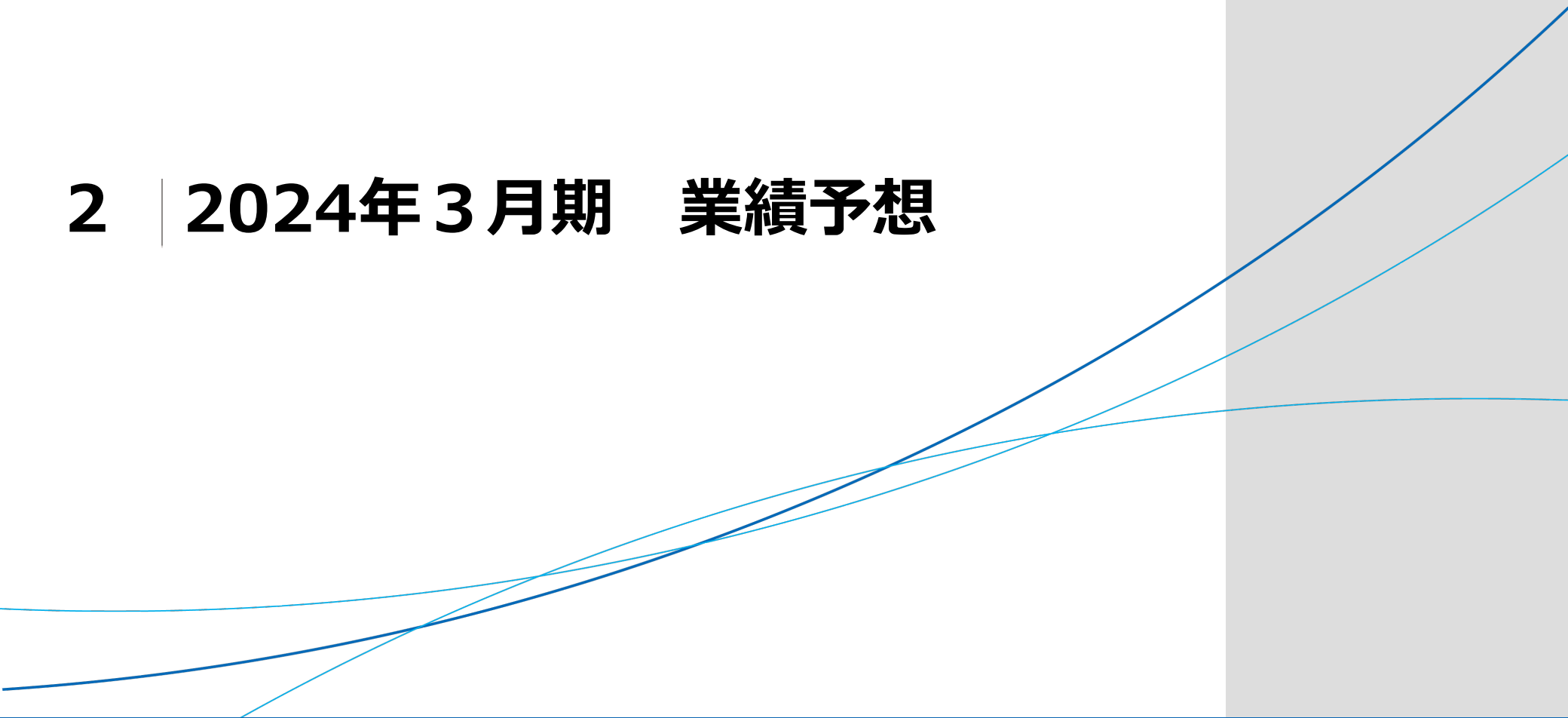


連結貸借対照表（サマリー）

（単位：百万円）

資産の部				負債・純資産の部			
	2022年3月期末	2023年3月期末	増減		2022年3月期末	2023年3月期末	増減
流動資産	12,023	14,270	2,246	流動負債	7,865	12,250	4,385
現金及び預金	5,778	6,881	1,102	買掛金	1,032	1,781	748
売掛金	2,069	2,631	562	借入金	1,845	6,170	4,324
リース投資資産	3,340	3,203	▲ 137	その他	4,986	4,299	▲ 687
その他	834	1,553	719	固定負債	1,418	1,014	▲ 404
				長期借入金	1,203	760	▲ 443
				その他	214	253	38
固定資産	6,397	10,839	4,442	負債合計	9,283	13,265	3,981
有形固定資産	3,776	8,171	4,395	純資産	9,136	11,864	2,727
無形固定資産	1,721	1,760	39	株主資本	7,131	8,905	1,773
投資その他資産	899	907	7	累積包括利益	178	449	270
繰延資産	-	19	19	新株予約権	191	263	72
				非支配株主持分	1,635	2,245	610
資産合計	18,420	25,129	6,708	負債・純資産合計	18,420	25,129	6,708

2 | 2024年3月期 業績予想



報告セグメントの変更



報告セグメントについては、現在、主に「国際通信事業」、「フィリピン通信事業」、「国内通信事業」、「メディカル&ヘルスケア事業」の4セグメントとしております。

2024年3月期より、今後のフィリピン国内海底ケーブル建設によるフィリピンにおける通信事業の業容の拡大を踏まえ、国際通信事業とフィリピン通信事業との連携がこれまで以上に高まることが見込まれることから、国際通信事業に統合するものです。併せて、「その他」としている事業の進捗管理も国際通信事業およびフィリピン通信事業を統括している通信事業本部にて実施していることから、国際通信事業に統合いたします。

(旧セグメント)	(新セグメント)	連結子会社
国際通信事業 フィリピン通信事業 その他	国際通信事業	・ InfiniVAN, Inc. ・ ISMO Pte. Ltd. ・ KEYSQUARE INC. ・ CarrierDomain Inc.
国内通信事業	国内通信事業	・ 株式会社アイ・ピー・エス・プロ
メディカル&ヘルス ケア事業	メディカル&ヘルス ケア事業	・ Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporation (SLACC) ・ Shinagawa Healthcare Solutions Corporation (SHSC)

（単位：百万円）

	2023年3月期 通期実績	2024年3月期			
		上期	下期	通期	前年実績比
売上高	12,346	5,000	9,000	14,000	13.4%
営業利益	3,311	1,000	2,800	3,800	14.8%
経常利益	3,464	950	2,600	3,550	2.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,292	600	1,600	2,200	▲4.1%

通期予想の概要

- 売上高および営業利益は、140億円、38億円を見込む。経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益は、35.5億円、22億円を見込む。
- 国際通信事業においては、InfiniVANにおいて法人向けインターネット接続サービス獲得のための営業員の増員などの先行投資を積極的に行うものの、InfiniVANが建設したフィリピン国内海底ケーブルの提供が開始されることから、増収増益を見込む。
- 国内通信事業においては、引き続きコールセンター向けサービスの拡大を見込む。
- メディカル&ヘルスケア事業においては、SLACCはレーシックの件数の増加を見込み、増収増益となるものの、人間ドック/健診センターの運営が開始となるSHSCにおいては、多額の初期投資の減価償却費などのため、初年度は赤字を見込む。

2024年3月期 セグメント別業績予想



(単位：百万円)

セグメント	2023年3月期	2024年3月期予想	前年比	
			前年比	増減率
売上高	12,346	14,000	1,653	13.4%
国際通信事業	6,380	6,800	419	6.6%
国内通信事業	4,275	4,700	424	9.9%
メディカル&ヘルスケア事業	1,690	2,500	809	47.9%
営業利益	3,311	3,800	488	14.8%
国際通信事業	1,865	2,200	334	17.9%
国内通信事業	919	1,050	130	14.2%
メディカル&ヘルスケア事業	536	550	13	2.4%
セグメント間取引消去	▲ 11	—	—	—
営業利益率	26.8%	27.1%	—	—
国際通信事業	29.2%	32.4%	—	—
国内通信事業	21.5%	22.3%	—	—
メディカル&ヘルスケア事業	31.8%	22.0%	—	—

(注) 2023年3月期のセグメントの売上高・営業利益はセグメント変更に合わせ、組み替えております。

■ 国際通信事業

C2C回線を中心とした国際通信回線をフィリピンなどの通信事業者・CATV事業者への提供を拡大する。

InfiniVANが共同建設したPDSCNを陸上部分の通信回線と接続させ、フィリピン国内基幹回線を構築し、その回線提供を開始する。また、これまで提供できなかった地方の通信事業者・CATV事業者との取引の拡大を図る。

法人向けやレジデンス向けのインターネット接続サービスにおいては、営業員の増強などの先行投資を増加させ、顧客獲得強化を一層進める。

■ 国内通信事業

コールセンター事業者など向けの自動架電や顧客管理を統合するシステム（AmeyoJ）と、格安通話料金サービス（秒課金フリーダイヤルサービス）をパッケージにしたトータルソリューションが引き続き堅調に推移する計画。

固定通信のIP化への対応や日本国内の通信環境の改善などに向けた事業活動を検討する。

■ メディカル&ヘルスケア事業

今期も引き続きレーシックの件数の増加を見込む。

4月に開院したShinagawa Diagnostic & Preventive Care Center（人間ドック／健診センター）を運営するSHSCは初年度赤字を見込む。

- ▶ 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- ▶ 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- ▶ 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ▶ 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

《IRに関するお問い合わせ先》

株式会社 アイ・ピー・エス
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1
東劇ビル8階

TEL: 03-3549-7719 FAX: 03-3545-7331